

伊丹市立荒牧中学校 第2学年

みんなが英雄

平成28年10月13日(木) 第22号

「体育大会を終えて」生徒作文



出番を待つ2年生

5組 松本明澄

「史上最強のソーラン」を目指して練習していましたが、練習中完璧にできたことは一度もなく不安でした。しかし、本番直前に宇宿先生から仲野先生の言葉を伝えていただいたときにその不安はなくなりました。大勢の方にソーランを魅せられたと思います。

夏休みが明けてソーランの練習が始まったときは正直なところ「だるい」としか思えず、ソーランをすることの意味が見いだせずにいました。実は、本番1週間前までずっとそうでした。「意味は理解できなくとも誰かが史上最強のソーランを目指すと云ったならその意思にそえるように努力しよう」くらいの気持ちで参加していました。ソーランという伝統の重みを知ったのは、岡本さんが作ってくれたソーランの前にあるダンスの存在を知ったときです。「ソーラン」というスタイルを崩さずに今までとは少し違う「迫力」をたそうとするその試みを知って、やっと、ソーランを受け継ぐ責任・緊張を感じました。

兄や姉のソーランを見ていたとき、私はまだ小学生でした。「伝統」なんて言葉も知らなかったと思います。でも、中学2年生になって自分がソーランを踊る立場になり思い出しました。ソーランは格好良いだけでなく華やかでとても強くてたのしいものだ。ずっと守られてきた伝統、受け継がれてきたはっぴ、掛け声にすべてが詰まっているのだ。

私たちの代は、そこに新しいものを足すという、とんでもないことに挑戦しようとしているのです。半端な覚悟はドブに捨てましょう。全身全霊で挑むべきです。

体育大会はもう過去の話になりました。目指すは連体、どの学校よりも華やかで強くてたのしく、そして新しいソーランを完成させます。

6組 野田志歩

すごく良い天気の中、土曜日に体育大会が行われました。今回は去年より遅かったのでその分たくさん練習できました。今年は去年とは違う、カッコいい荒中ソーランに挑戦しました。私はとてもソーランが好きで、私も先輩たちのように伝統を受けつぎ、見ている人に感動を与えるソーランはもちろん、それを超える「史上最強のソーラン」を目指して2カ月間がんばってきました。しかし、去年は楽しく、見ている人がおどろくようになるようなダンスだったから練習は楽しかったですが、今年のソーランは踊るのも難しく、新しいダンスも加わり、とても楽しかったとは言えませんでした。さらに、気持ちもそろわず本番直前まで怒られてばかりでした。でも怒られた分、もっとがんばる、本番を成功させようという気持ちがそろい、私の中では今までで

一番良かったと思います。やっぱり一番大切なものは、気持ちなんだと改めて思いました。

そしてムカデは結果こそ6位でしたが、本番では一度もこけず、けがもなかったの、私は良かったと思います。6組は6位だったけど、悔いはありません。女子リレーは今年もアンカーを任せてもらいましたが、去年最下位だったので正直不安でした。しかし、4位でバトンをもらい、結果3位でゴールできたので、すごくうれしかったです。そしてもう一つ不安だったのがファンファーレです。何度も練習で成功しても、やっぱり緊張します。しかし、本番も練習どおりにできて、先輩にも、ここ3年で一番良かったと言ってもらえて、とてもうれしかったです。来年は今年を超えるファンファーレにしたいです。

3組 河野 愛華

2年生になっての体育大会は本当に楽しかった。ソーランを踊るのは最後！そして3年生から受け継ぐ伝統を潰したくなかった。自分たちでつくりあげた伝統はダンス。ソーランの前のダンスが本当によかった。練習の時から先生たちに怒られていて、正直言って大変だった。ソーランリーダーでも、ただいだけっていう人が多かった。ソーランリーダーじゃない人でも女子はまじめだったが男子がものすごくめんどくさそうにおどるところを見て、ここでもイラッとしたりしてしまった。そこで、自分が体育委員としてやったことは、みんなへの声かけ。しんどそうにしていたら「がんばろ!!!」と言う声かけをしていくなかで皆がついてきてくれました。ソーランに対しての気持ちを一人一人に聞くとき正直怖かったです。みんなから何て言われるか不安でした。けど、全員の気持ちが

「もっと自分から踊ろうと思う」

「踊れなくても、全力を尽くす」

「最後までやり切る」

と、言う声が全員の言葉から出た。そして、自ら言ってくれて全員気持ちが一致していると感じられた。「“史上最強”のソーラン」をつくりあげるには気持ちが一つじゃないと何もまとまらないということ。連体、伊丹わっしょいまでにすることは、波、かもめ、細かい動きをそろえる所に集中してやりたい。全部がそろうとカッコよく見える。荒中の伝統を潰したくない。もっといい演技をつくりあげる。

「トロフィー」

3組のすごい所は、競技で1位をとらなくても、自分たちの応援でみんなが元気になるところです。しかし、3組が総合優勝するとは、自分でも思っていなかった。クラスの目標「3組らしく優勝」というのは本当に当たっていると思った。また、このメンバーで勝てたことはよかった。3組らしくは、全員が全力でやること。みんな一人一人が勝ちたいという気持ちがあるからこそもらった賞だと思う。“きずな”が生み出された。

個人種目は何ともいえないが、バトンリレーで、ゆずきから1位で引き継いだのに、3位でバトンを渡してしまった。これが、一番のショックである。本当に申し訳ないです。最後に、前期の体育委員ができて、いい経験になりました。また、このクラスの体育委員をしたいと思えました。

